

第5 A (小) 分科会 —教職員の専門性に関する課題—

提案主題 一人ひとりの持つ力を十分に生かす学校組織のあり方

司会者	大分市立桃園小学校	佐藤 宏 明
提言者	大分市立下郡小学校	山 元 一 哉
助言者	別府教育事務所次長兼指導課長	福 田 秀 樹
記録者	大分市立東大分小学校	佐々木 和 典

1 協議の柱

- ・ 個を生かすための学校環境整備
- ・ 校内人事の工夫とミドルリーダーの活用によるO J Tの推進
- ・ 地域の人材を生かすための協力体制作り

2 協議の実際

- (1) 小規模校では、職員会議と企画会議のメンバーがほぼ同じであり、個人の提案となっていることも多いが、少人数でプロジェクトチームを作り提案してもらうようにしている。大規模校でも、分掌会議を持ち学校運営に参画意識を持たせ、企画会議につなげていくことが大切である。また、教務主任との仕事分担や協力体制のあり方も重要になってくる。
- (2) 年齢構成の面から考えてもO J Tが一層推進されていく必要があるが、教頭は互見授業に行き、その写真を撮って全職員に還流するぐらいしかできていないという実情もある。ミドルリーダーの活用がこれからも大切な課題となってくる。
- (3) 地域の方との連絡調整にあたる担当の名前が各学校によっても違いがあり、仕事の内容にも違いがある。コミュニティスクールが設置されている学校では、地域の人材等の活用がスムーズに進んでいる例もある。

3 指導助言

- ・ 職員会議が長引いたり、共通理解が不足するのを解決する鍵は企画会議にある。企画会議で充実した企画立案がなされるよう、主任は分掌会議で意見を聞き、しっかりとした準備をした上で、企画会議に提案する必要がある。丁寧な準備ができていれば、会議は活発になり、企画会議での議論が学校の力となる。一方で、教職員評価システムを通じて、校長の目指す方向に全員の意識を揃え、参画意識を持たせることが必要である。校長とともに主任とよく話しながら各分掌目標をつくりあげ、主任が個人の目標設定に関わることにより、「学校の目標→分掌目標→個人の目標」と連動するようにしなければならない。
- ・ 人材育成の中心は、学校で行うO J Tが大切である。通常それぞれの課題に対して教頭が直接指導することが多い中で、発表のあった下郡小は、ミドルリーダーが関わることでお互いに伸びることができるシステムになっている。そうすることで、初任者も教頭もベテランもミドルも成長していく。世代間の連鎖を促し、それぞれの先生が持っているものを引き出す仕組みが求められる。互いに認め合い、批判し合える素地を作り出すことが管理職の役割である。
- ・ 学校が希望することと、地域の人が希望することが違うことがある。その原因は、学校が何をしたいのか地域に理解されていないことがある。学校の課題とその達成に向けた取組、いわゆる4点セットをしっかりと説明し、具体的な協力を求める機会をもつことなど、目標の共有による家庭や地域との協働の取組に挑戦してほしい。